

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島雑司が谷 1-25-5 Tel/Fax 03-3985-4081

目次

- 1ページ …… 旧宣教師館イベント報告
- 2～3ページ …… 建物解説「カーペンターゴシック、てなんですか？」
- 4ページ …… 庭園情報「ブルーベリーの育て方」
おしらせ

◆ 旧宣教師館イベント報告 ◆



2010年11月13日に、当館の庭で親子参加型イベント「染めて・クリスマスカードづくり」が行われました。

夏の間、職員達が蚊に刺されながら、庭のブルーベリーの落下実を集めて冷凍保存しました。その実をつぶして作った染料液で、ブルーベリー色に染めてクリスマスカードづくりです。



出来上がりが楽しみです～

まずは真っ白な画用紙にクレヨンで絵を描きます。参加のみなさん、思い思いの絵を描いてくれました。全員が描き上がった段階で、いよいよ染色です。用意してあった染料液にチャポンと浸けると、鮮やかな赤紫色に染め上がりま

した。乾燥のため、庭につるした全員のカードが、旗のようでした。

乾くのを待つ間、ワークシートを見ながら、建物の○、△、□を探す旧宣教師館・建物探検をしました。普段よりも、いろいろ細かいところをたくさん見てくれたようです。今年のイベントもお楽しみに！



◆ 建物解説 「カーペンターゴシック、てなんですか？」 ◆

旧宣教師館を説明する際に、‘カーペンター・ゴシック’ という聞きなれない言葉が使われています。美術史に詳しい方ですと、旧宣教師館を見て、「え!?何でこれがゴシックなの?」とおっしゃる方がいます。今回は、このなその言葉について解説します。

‘カーペンター・ゴシック’ は英語の ‘Carpenter Gothic’ のことで、日本語に訳すと ‘大工のゴシック (様式)’ になります。カーペンターの無い、単に ‘ゴシック様式’ と言った場合は、12世紀後半から15世紀にかけてヨーロッパで流行した建築や美術の表現様式を示す言葉です。建物としては、ドイツ・ケルンの大聖堂のように、石を高く積み上げた壁に、その重みを支えつつ繊細な印象を保つ構造 (専門用語で飛び梁と呼ばれています) や、開口部分の上部が山形のように先端のあるアーチ状 (尖頭式アーチと呼ばれます) に特徴があります。この事をご存知の方だと、前述のように、旧宣教師館と ‘ゴシック’ のつながりに違和感を覚えるわけです。

実は、‘カーペンター・ゴシック’ は、このヨーロッパの ‘ゴシック様式’ そのものではなく、様式的にも時代的にも19世紀中頃のゴシック様式の再発見によって始まりました ‘ゴシック・リバイバル’ から派生したものです。

中世で大流行した ‘ゴシック様式’ は、14世紀のイタリア・ルネサンスでは「野蛮人の様式」として否定され、細々と継承されつつも日陰に追いやられました。それが19世紀には、中世へのロマンティシズムと懐古を人々が感じるようになり、熱烈なゴシック様式愛好家達を生み出します。昔日の様式を模倣・再現する芸術運動がヨーロッパ中に広まったのです。イギリスのビッグ・ベンで有名な英国国会議事堂や、スペインのアントニオ・ガウディの作品の一部もゴシック・リバイバルです。

さて、当館の施主である宣教師ジョン・ムーディ・マッカーレブの生まれ故郷・アメリカを見てみましょう。‘欧米’ と一括りにされた際に指すアメリカ文化は、ヨーロッパからの移民に因るところが大きくあります。大規模な移民がある度に、移民の本国の最先端文化と一緒に伴われるようにして持ち込まれています。建築も同様で、主な輸入先はイギリスです。ですので、アメリカではヨーロッパに少し遅れて同じような様式や流行の変遷を見ることができます。と同時に、ヨーロッパ各国の様式がアメリカという一国の中で混ざり合っているのです。その混沌とした文化状況は、欧化政策を進める明治政府下の日本で、欧米各国の文化が立ち並び混交したのと、どこか類似性を感じさせます。

そのようなアメリカ建築史の中で、‘ゴシック・リバイバル’ は少し特異な発展を遂げます。ヨーロッパでは富裕層が家を立てるときに石やレンガを使います。その点はアメリカも同様なのですが、アメリカではこれらの資材が不足しがちでした。代わりに豊富にあったのが樹木でした。そこでヨーロッパよりも木造建築が発展しました。ゴシック・リバイバル様式もアメリカの教会建築や家屋として発展していく過程で、石やレンガで表現し

ている形態や精神性を、木材に置き直されました。石やレンガのゴシック・リバイバル建築で見られる‘ゴシック的’な装飾も、アメリカでは木で作られ、木造の建物を飾り立てました。それがアメリカ独自の‘カーペンター・ゴシック’なのです。石やレンガと木材では、材料としての耐久性や工法に違いが出ますし、完成した建築物の印象も違います。特に特徴を際立たせている木製の装飾は、‘ゴシック・リバイバル’としても独特であるばかりでなく、単純に‘カーペンター・ゴシック’＝‘ゴシック・リバイバル’と分類できないほどに、19世紀中頃から20世紀初めまでのアメリカ木造建築の様々な様式で、装飾として散見することができるのです。

‘カーペンター・ゴシック’の典型的な装飾としては、軒下の破風板、尖頭式アーチ形の窓、あるいは窓枠の内部に木枠で作られた模様などがあります。総じてゴシックを追従した装飾性なのですが、当時の人々が考える‘ゴシック的’な模様なので、歴史的に正確に模しているばかりではありませんでした。ブドウの葉模様のように、それらしきものを使っている場合も多々あります。また、カーペンター・ゴシックの典型例として挙げられるアメリカ・メイン州の‘ウェディング・ケーキ・ハウス（1825年）’のように、過剰なほどまでの装飾がなされている建築もありますが、当館のように控え目な装飾のみのももあります。

このような装飾化がアメリカの中産階級で広まり得たのは、技術面の開発があったからです。産業革命とも繋がりますが、蒸気式ノコギリや、足踏み式ミシンのような糸ノコ機（学校の工作で使う電動糸ノコのご先祖・人力版のような機械です）などの道具が発明され、普及することによって、大量かつ簡単に装飾部分を作ることが可能になりました。ところでマッカーレブが日本で当館を建てた時はどうだったのでしょうか？はっきりとした記録はありませんが、アメリカ人による設計を元に日本人の大工が一生懸命作ったのかもしれない。

雑司が谷旧宣教師館はアメリカの典型的なゴシック・リバイバルの木造建築に比べて、家全体の構造やプロポーションは、シンプルですっきりとした印象があります。家の全体的なデザインは、下見板を特徴とするシングル様式を彷彿とさせると言われる所以です。装飾部分においてカーペンター・ゴシックを取り入れつつ、他の様式が混在している当館は、まさに19世紀末のアメリカ郊外住宅の様相を伝えていると言えます。（文責：白田）

参考文献： Alma deC. McArdle and Deirdre Bartlett McArdle ‘Carpenter Gothic’ New York, Whitney Library of Design, 1978
Virginia McAlester and Lee McAlester ‘A Field Guide to American Houses’ New York, Alfred A. Knopf, 2009

カーペンター・
ゴシックの特徴
である木造装飾→

←中世のゴシックの
特徴である飛び梁



◆ 庭園情報 ブルーベリーの育て方 ◆



Q:「どうやったら、旧宣教師館みたいに、たくさんブルーベリーが成るように育てられるんですか？」

A:そこで職員Sが、庭の手入れをお願いしている園芸屋さんに聞きました！

職員S「お客様から、ブルーベリーの育て方について聞かれたんですが…？」

某園芸「コツですか？難しいですねえ。旧宣教師館は変ですからねえ。」職員S「ハア」某園芸「異常ですよ。近隣でもここだけですからね。ブルーベリーがこんなに生茂っているのは。枯れてしまう場合が多いです。」職員S「そ、そうなんですか？何かなす術はないのですか…？」某園芸「実が終わった秋に、御礼肥（おれいひ、おれいごえ）をあげてください。赤ちゃんを産んだお母さんに栄養をつけてもらうのと同じです。それから、実が成った古い枝が枯れ込むので、これを中心に剪定して下さい。春先に剪定すると、花芽を切ってしまうので、この時期にしたほうがいいですよ。慣れていない方は、肥料と剪定の時期を間違える場合が多いんです。まずはここから気をつけてみるといいと思います。」職員S「なるほど。」

酸性土壌で生育の良い不思議な木、ブルーベリー。皆さんのお家でも、たくさん収穫できるといいですね。

◆ おしらせ ◆

雑司が谷旧宣教師館は、2011年1月より3ヵ月間休館し、5年に1度の大規模修繕を行いました。なるべく昔と同じ油性ペンキを使ってのペンキの塗り直し作業や、経年や腐朽で傷んだ木部の取替えなど、たくさんの方のお陰で工事が行われました。その間には、東北関東大地震もありました。相当に揺れましたが、当館は幸い、目立った損傷もありませんでした。被災に会われた方の生活が一日も早く回復することをお祈り申し上げます。

4月より通常通り開館ですが、地震の影響で企画の開催については変更の可能性もあります。

✦『赤い鳥』を語り継ぐおばあちゃんのおはなし会（毎月第一土曜、14：00～15：00）

4月2日 小川未明、坪田譲治

5月7日 小川未明、鈴木三重吉

✦「春のガーデンコンサート」

5月8日（日）14：00～16：00

開催・中止は、当館へお問い合わせ下さい。